

INFORMATION

名原会総会日程が決定しました！！

日時：平成14年10月26日（土）

場所：愛知厚生年金会館

会費：5,000円を予定（立食）

参加申し込み方法

同封の返信用ハガキに

ご芳名・ご住所・ご出欠

をご記入の上、9月末日必着にて事務局宛ご返信ください。

詳しくは14ページをご覧ください

目 次

特別寄稿	3
“「馬鹿正直であれ」は無いものねだりか”	金川 昭
「日立から核融合研に移って感じる事」	朝倉 大和
「第二の故郷名古屋を離れて・新天地島根での新たな出発」	重松 宏武
活動報告	6
関東支部OB会報告 / ホームページの開設について / 会費納入のお願い / 工学部・工学研究科同窓会名簿の販売 / 名簿記載内容の変更・訂正 / 宛名ラベルの提供 / 名原会ニュースへの掲載募集	
教室の近況	7
職員の移動 / 山本先生総長補佐に	
研究室便り	7
会員の声	10
魚の個性	瓜谷 章
「はじめての公務員」	長野久美子
原子力に対する公衆の合意形成について	山田 克己
核院会便り	13
お知らせ	14
総会の開催 / 金川先生叙勲 / 森田先生最終講義のご案内 / 「放射線安全工 学・エネルギー環境工学」研究室四十周年記念パーティ報告 / 工学部同窓会から / 各種証明書類の請求	
編集後記	15

会員の方々へのお知らせ・ご案内がございましたらお寄せください。
名原会ニュースに掲載いたします。ご寄稿もお待ちしています。

特別寄稿

“「馬鹿正直であれ」は無いものねだりか”

名古屋大学名誉教授 金川 昭

「馬鹿正直になれないと思う者はこの室から出て行くこと」をもって、原子核工学科専門講義を始めるに当たっての学生への最初の言葉として来た。原子力の安全確保は、人間は科学技術的にも、情緒的、倫理的にも過ちを犯すものとして、それら過ちの範囲程度を想定し、設計的に適正に対応することをもって達成される。その中で最も難しいのが反倫理的過ちへの対応である。かかる過ちの発生を防ぐには、現実的には唯一「馬鹿正直になれること」だけしかないと考えていたからである。

ファジーな治め方が日本的慣行として横行する世の中で、組織集団の中であって「馬鹿正直になること」が如何に難しいことかは近時各界において多発している反倫理的不祥事を見れば明らかである。「馬鹿正直になれる」人が1人でもいたら殆んどの不祥事は防げたはずである。その極め付けの1つが原子力界でのJCOの臨界事故である。許認可を受けた正規の工程および運転条件を無視した違反行為が事業者レベルで長期間意図的かつ組織的に行われた結果の事故であり、「馬鹿正直になれる」人がその長期間中に1人も存在しなかったのである。このJCO事故にまつわるものとして、反倫理性においてはむしろ事故そのものよりも深刻なNHKの虚偽テレビ報道がある。事故当日の原子力安全委員会における住田委員の「再臨界の心配はない」という発言が、「再臨界の可能性はある」という正反対の発言にすり替えられたのである。住田氏は「取材でそのような発言はしておらず、放映インタビューテープは改ざんされたもの」としており、報道を担当したNHK科学文化部では「取材テープは証拠保存されており、放映テープに改ざんの痕跡はない」としている。倫理的に最高のレベルになければならない両者のいずれかが「馬鹿正直になれる」どころが大嘘をついていることになり、人間の善性を信じ学生に「馬鹿正直であること」を求めて来たことは、所詮非現実的な無いものねだりだったのでは、と思わざるを得ないものがあった。

そうであっても、現時点でも、「馬鹿正直であること」が原子力の安全確保の最高の特效薬であることには変りはなく、「半恒久的エネルギーの現実的可能性としての核分裂原子力の重み」(文芸春秋：日本の論点2000, 論点63)を厳正にかつ畏れをもって認識している者として、ここで再度「馬鹿正直になれないとわかった者は原子力界から出て行くこと」と申し上げておく。

「日立から核融合研に移って感じること」

核融合科学研究所教授・朝倉大和

(昭和48年卒)

25年間勤めました日立製作所を一昨年退社し、昨年(H13)の1月1日から核融合科学研究所・安全管理センターに勤務しております。

日立に在籍時は、研究所、工場でBWRプラント(沸騰水型原子力発電所)の水質管理面からの放射能低減技術の開発に従事してきました。技術開発のねらいは定期検査時に作業従事者が受ける放射線被曝量の低減です。GEから技術導入した初期のプラントに比べて、日本で改良した最新プラントの被曝実績は1/10以下に低下しており、その一部に水質面での改良技術も貢献できたかなーと思っています。水質管理面での改善技術は効果が一定せず、“水もの”と悪口を言われることもありましたが、それなりに生きがいも感じてくれました。

ただ、原子核工学教室に入学した1970年頃は、原子力発電に対する国民の暖かい期待を感じましたが、最近では脱原子力の世論が強まってしまったことを無念に感じつつ日立を退社した次第です。

日本のエネルギー事情を考えれば、原子力エネルギーの重要性は少しも変化しておらず、むしろ、経済性と安全性を共に高めていくための技術革新が一層大切になっています。しかし、この課題を電力会社や民間企業だけにゆだねるのは限界があります。理由は単純です。研究予算として10M¥/年を維持しようとする、企業ではこの研究で1000M¥/年の売上(利益率1%として)を見込む必要があります。原子力発電所がどんどん新設される状況ならともかく、設備投資が抑制されつつある現状では大変なことです。

現在の閉塞感を打ち破るためには、大学や国の研究機関の戦略的なサポートが必要と考えます。とりあえず自分の現在の立場からは、核融合炉開発の分野で国民の温かい理解と期待が順調に深まることを楽しみに、残された10年間を、放射線安全に関する地域住民との対話とトリチウムのより安全な取扱い技術の開発に取り組み、名大で原子力を専攻した研究者として悔いを残さない締めくくりをしたいなーと考えているこのごろです。

「第二の故郷名古屋を離れて・新天地島根での新たな出発」

島根大学教育学部助教授 重松宏武

(量子第2講座 元助手)

平成7年9月から平成14年3月までの6年7ヵ月、量子工学専攻第2講座で助手として勤めさせていただきました。名古屋という土地は：初めて就職した土地であり、：家内と出会った土地であり、：学位も名古屋に来てから取得しましたので、私の人生で大きく得たもののほとんどが名古屋という非常に濃い関係を持っております。さらに私は今まで8都県で暮らしましたが、名古屋は最も長く過ごした愛媛県松山市の7年に次ぐ長

さであり、第二の故郷となりました。名古屋大学在職中は松井先生、長崎先生、有田先生をはじめ皆様に愛され(？)、可愛がられ(？)、公私共に導いていただき大変感謝致しております。どうもありがとうございました。

この4月、島根大学教育学部理科教育研究室物理担当教官(助教授)として着任いたしました。あっという間に1ヵ月という時間が過ぎましたが、不思議なことに島根大学ではまだ一度も怒っておりません。私の事を良く知っておられる方は不思議に思われると思います。そして私自身も不思議に思っております。なぜだろうか？と理由を考えてみました。私が今まで過ごした理学部(学部、大学院修士課程)や工学部(大学院博士課程後期、助手時代)と全く違う世界に戸惑っているからだろうか？それとも授業や会議に追われていて、怒る暇が無いのだろうか？これらは要因にはなっているがそれだけではないはずである。それは私が人として重要だと思っている3P(Pureness, Purpose, Passion)を持っている教官や学生が多いからであるという結論にすぐ達しました。つまり、私にとって「教育」という意味では島根大学教育学部は居心地は悪くはないのである。

ここ教育学部では教官も学生もきちんと目標を持っており、それに向かって一途、そして素直に努力または遂行しています。その目的とは学生さんは当然のことながら「学校の教師になること」であり、教官はそのための指導・サポートすることです。教官にとってはこの行為は主たる仕事のひとつとなります。学生さんは教員採用という狭き門を目指して、同じ研究室のライバルと仲良く勉強をし、目標に向かってがんばっています(ほとんどが小学、中学理科の教採を目指しているのも、まわりはみなライバルなのです)。さらに彼等の心は純粹であり、授業や実験に対して他学部に比べると真面目に興味を持って取り組んでいます。残念なことは、彼等にとって大学の教官は「学校の先生」であって、大学は高校の延長でしかないようにも感じ取れる場面が多々あることです。この点に関しては時間をかけて意識を改革していかなくてはならないと思っています。

私は理学部、工学部、そして教育学部とききましたので、ここ島根大学教育学部では研究とは離れて、「教育とは何か」ということを認識する良い機会を与えて頂いたと思っています。何もかも前向きにがんばろうと思っていますし、自分自身も成長できればと思っています。

「研究」に関しては、まだ本格的な活動が始まっていませんので、コメントは難しいです。もし、数年後の「名原会ニュース」に原稿を寄せさせていただく機会がありましたら、教育学部の「研究」とは何かについて書かせていただきたいと思います。

最後になりましたが、

重松は島根でがんばっております。「憎まれっ子、世にはばかる」の言葉通り、はばかっております。重松の暴君ぶりを見にぜひ島根大学に遊びにいらしてください。そして、一緒に宍道湖に映る綺麗な夕日を眺めながら飲みましょう。語り合いましょう。

活動報告

1. 関東支部OB会報告

去る平成13年11月16日(金) JNC 青山にて、名原会関東支部OB会が開催されました。名誉教授の内藤先生をはじめとした計29名の方々がお集まりになり、盛会となりました。写真など、詳細はHPに掲載してあります。

2. ホームページの開設について

昨年度より、名原会ホームページを立ち上げました。ぜひ、ご覧ください。ホームページに掲載希望の記事等がございましたら、幹事までご連絡ください。

<http://www.nucl.nagoya-u.ac.jp/meigenkai/>

3. 会費納入のお願い(重要)

今年度より、会費納入方法を変更させていただくことになりました。卒業生各位との連絡を密にとりたいとの観点から、毎年1,000円ずつ会費納入をお願いいたします。名原会員名簿は、3年に一度改訂いたします。次回の改定予定は平成15年です。

4. 平成14年度版工学部同窓会名簿の販売について

名古屋大学工学部・工学研究科同窓会名簿は4年に一度発行しております。現在、平成14年度版を編集中で、今年度より、CD-ROM版も準備します。購入をご希望の方は、名原会幹事までご連絡下さい(価格は未定です)。

5. 名簿記載事項の更新・訂正

随時、名原会名簿の改訂を行っています。記載事項に訂正のある方はご連絡下さい。葉書、FAXのほか電子メールでもお受けいたします。また、公開ホームページ(<http://www.nucl.nagoya-u.ac.jp/meigenkai/>)にも、名簿記載内容変更フォームを開示していますので、ご利用ください。

6. 宛名ラベル提供

宛名ラベルの提供を有償で行っております。ただし用途は同窓会あるいは学科、研究室に関する活動に限ります。費用につきましては人数等で異なりますのでご相談下さい。

7. ニュース掲載記事募集

勤務先や住所変更等、また催し物などについて会員にお知らせしたい方は名原会までご連絡下さい。年に1回の発行ではありますが、名原会ニュースに掲載してお知らせいたします。

教室の近況

1. 職員の移動

- 重松宏武 島根大学教育学部助教授に栄転 (平成14年3月31日)
山澤弘実 助教授に就任(エネルギー環境工学講座) (平成14年4月1日)
長野久美子 教育学部事務室に転籍 (平成14年5月1日)

2. 山本先生が総長補佐に

核燃料サイクル工学講座の山本一良教授は、平成14年4月1日付けで総長補佐(教養教育担当)に任命されました。

研究室便り

[講座名]

Tel/Fax 052-789-XXXX 担当教官(:教授、 :助教授)

[中性子系制御工学講座]原子核第1講座

4681/3608 山根 義宏 北村 康則

中性子集団の時間及び空間相関現象に着目し、実験と理論さらに大規模シミュレーションを駆使して、新しい原子核エネルギーシステムの構築を目指しています。

「卒業生へ・・・」

平成14年度の中性子系制御工学講座(原子核第一講座)の近況をお知らせします。第一講座は現在、山根義宏教授、北村康則助手の元、M2が3人、M1が3人、B4が5人の計13名です。第一講座では、毎週定例として、セミナー、研究会、お茶会が行われており、意見を出し合って研究を進めています。また、インターンとして原子力関連の会社や研究所にお世話になる等、幅広い活動をしております。

[エネルギー材料化学講座](原子核工学専攻第2講座)

4686/5155 森田 健治 玉置 昌義

イオン・電子・レーザー光などの量子ビームを用い、物性研究への加速器の高度利用、エネルギー関連材料の基礎と開発の研究を進めています。

[原子核計測学講座] (原子核工学専攻第 3 講座)

4680/5127 井口 哲夫 瓜谷 章 河原林 順 渡辺 賢一

光、電子、イオン、(X)線、中性子などのエネルギー量子が持つ情報を多次元的かつ精密に測定する革新的システム開発とそれらを基にした量子計測応用技術の高度化研究を行っています。

「卒業生へ・・・」(宮原研)

宮原研を卒業の皆様、お元気ですか？

現在、宮原先生と修士1人の2人しか在籍していません。以前は狭かった部屋も逆に広すぎて持て余しています。京大炉の実験で鉛ブロック等、装置の組み上げ時にマンパワーが足りなくて困る時もあると思いますが、そこは足りない人数を補えるように助け合ってやっております。人っ気が少なく静かな状態ですので皆さん、研究室を盛り上げに来てください

[エネルギー環境工学講座] (原子核工学専攻第 4 講座)

3781/3782 飯田 孝夫 山澤弘実 森泉 純

過度な放射線被ばくからの人間と環境の防護と被ばくの低減およびエネルギー生産・需要の増大にともなう地球環境問題に関する研究を行なっています。

「卒業生へ・・・」

昨年末の研究室 40 周年パーティ(別記事参照)では多くの方々にお集まり頂き、有り難うございました。研究室の歴史と、和やかな第 4 講座的雰囲気は長年変わらず受け継がれてきたことをあらためて認識致しました。

この 4 月から山澤弘実助教授を研究室にお迎えしました。ようやく教官も 3 人となり、研究・教育質の質をより高められると一同喜んでいきます。特にここ数年手薄だった数値計算解析が復活できると期待しています。卒業生の皆様には益々のご支援を賜りますようお願いいたします。(森泉)

[核燃料サイクル工学講座] (原子核工学専攻第 5 講座)

3783/3785 山本 一良 小林 登

核分裂炉および核融合炉の燃料サイクル確立、とくに熱拡散法、水蒸留法による水素同位体分離、化学交換法によるリチウム同位体分離、超臨界流体抽出などの実験および解析に力を入れています。

「卒業生へ・・・」

昨年度から環境量子リサイクル研究センターに榎田教授が昇任され、形としては2つの研究室に分かれましたが、実験や輪講、ミーティングなどは共同で行っているため、山本教授、榎田教授の2人の教授のご指導を頂き、皆充実した研究生活を送っています。

[環境調和型エネルギー源材料講座] (理工科学総合研究センター第 6 講座)

5177/5177 田辺 哲朗 武藤 俊介 吉田 朋子

核融合炉実現のための最重要課題であるプラズマと材料との相互作用を明らかにするため、国内外の研究期間と協力しながら、イオンビーム、レーザー、SOR光、超高压電子顕微鏡等を使って研究しています。

「卒業生へ・・・」

今年も先輩方が卒業され寂しくなりましたが、どんな新生が入ってくるのか楽しみです。毎年明るく元気な仲間が増えて毎日に活気があふれています。しかし卒業されていった先輩方に比べ酒に対して弱くなっており、すこし寂しい気が致します。ですので酒の飲み方でも教えるような心持で気楽にお訪ねください。そして当時の田辺研や研究の話して盛り上げましょう。お待ちしております。

[粒子線物性工学講座] (併担、結晶材料工学専攻第 2 講座)

4683/5155 曾田 一雄 八木 伸也 加藤 政彦 柚原 淳司

新しい機能を持つエネルギー関連材料を求めて、放射光やイオン・電子・レーザー光などの量子ビームを用い、材料の性質を調べるとともに新材料の開発や材料制御の研究をしています。

[超伝導工学講座] (併担、エネルギー理工学専攻第 1 講座)

3777/3847 松波 紀明

超伝導コイルの応用、新しい超伝導材料の探索、超伝導体の薄膜化技術など、核融合発電を含む次世代エネルギー応用に不可欠な超伝導の基礎研究を行っています。

[原子核システム工学講座] (併担、エネルギー理工学専攻第 2 講座)

5419/4692 久木田 豊 辻 義之

21 世紀の原子核エネルギーシステムの確立と安全性の向上をめざして、「受動的な」原子炉冷却の熱流動シミュレーション、中性子応用、核分裂生成物特性の研究を行っています。

「卒業生へ・・・」

激動の 2001 年度も終わり、新年度がスタートしました。今年度はドクター：4 人(社会人ドクター含む)、M2：7 人、M1：5 人、B4：4 人という、おそらく研究室始まって以来の大所帯になりました。昨年度に引き続き、研究室がにぎやか過ぎることになることでしょうか。このような良い雰囲気を保ちつつ、研究や勉学、スポーツ等がんばっていきたいです。現在、卒業生の皆様、名古屋にお立ち寄りの際はぜひ研究室に遊びに来てください。皆様のご活躍を心より期待しております。

[加速器応用核物理学講座] (併担、エネルギー理工学専攻第 4 講座)

3843/3844 河出 清 山本 洋 柴田 理尋

加速器、原子炉のイオン、中性子ビームを駆使した未知原子核の探索、不安定核の構造、崩壊様式の解明、核融合炉材の放射化断面積の測定を通して、放射線・中性子高度利用、核データベース構築を目指しています。

「卒業生へ・・・」

110%の高効率貫通型 HPGe 検出器が導入されました。測定台も組み上がり、本測定に向け準備が着々と進行中です。未測定核種の Qb を高精度で決定します！ 経過はホームページをご参照ください：

http://www.ees.nagoya-u.ac.jp/~web_dai4/index.html

[プラズマ基礎工学講座] (併担、エネルギー理工学専攻第 6 講座)

4592/4592 佐藤 紘一 庄司 多津男 有本 英樹 坂和 洋一

核融合炉心プラズマの閉じこめ特性の改善をめざします。そのために、能動的・非接触のプラズマ計測法を開発し、それを用いてプラズマの輸送現象、非線形現象を解明します。

[エネルギー機能材料学講座] (併担、量子工学専攻第 2 講座)

4682/3779 松井 恒雄 長崎 正雅

核分裂・核融合炉用、燃料電池用、熱電変換用材料、同位体制御新エネルギー機能材料を対象として、放射光や中性子を用いた構造・物性の実験的研究および高温熱物性の測定・解析を行っています。

環境量子リサイクル研究センター

3786/3785 榎田 洋一 有田 裕二 吉田 善行 (客員教授)

環境と調和した量子エネルギー利用を一層躍進するために、二次廃棄物量を極小化した核燃料物質のリサイクルや新機能性材料の創製を目指した実験および理論研究を行なっています。

支援組織	技術室	052-789-5871
	事務室 (材料・原子核工学教室担当)	052-789-3399

会員の声

魚の個性

産業技術総合研究所 瓜谷 章

(昭和 59 年卒・名大原子核助教授併担)

ここ数年、魚の飼育に凝っている。ソロモンの指環に触発されたわけでもないが、子供の頃には買えなかった 60cm 水槽やウォーターポンプを揃えて、本格的に楽しんでいる。とはいっても飼っているのは高価な熱帯魚ではなく、近くの池で捕まえてきたコイやフナ、モツゴやタナゴなどの稚魚である。1年をかけて大きく育て、必ず元の池に返すことにしている。これまでに、かれこれ30匹ほどを戻したであろうか。身近な環境破壊や外来種のおオクチバスなどの出現により、絶滅の淵へと向かいつつある在来種を少しでも応援しようとの思いでやっていることである。もっとも彼らにとっては大きな迷惑かもしれないが。

さて、身近で魚を観察しているといろいろと楽しい発見がある。個性があまり無いように思われている魚であるが、実は一匹一匹外見も異なれば、性格もまったく異なるのである。例えば、生まれつき片目しかないギンブナのカタメちゃんは寂しがり屋であった。水替えの時に一匹だけ違う水槽に移したら気が狂ったように水槽の内側にそってぐるぐる泳ぎまわることがあった。ガラスに反射する自分を見て泳いでいたらしい。しばらくして、どうも仲間を探しているらしいということに気がつき、他のギンブナを入れてみた。するとどうだろう、まるで吸い寄せられるかのようにぴったりとくっついてしまい、一日中離れようとしなかった。このカタメちゃんのメイトになったデカちゃんはとりわけ心の優しい魚で、特にカタメちゃんに対しては優しくかった。カタメちゃんは目が不自由な上に、口も曲がっていて餌を食べるのが遅いのであるが、デカちゃんは図体がカタメちゃんの10倍くらいあり沢山食べたかっただろうに、カタメちゃんがひとしきり食べ終わるまでいつもじっと待ってあげていた。デカちゃんはまた大変な怖がり屋さんで、水槽の中ではいつもビクビクして、自分よりはるかに小さいカタメちゃんの後ろをついて回っていることが多く、なんともほほえましいコンビであった。

そうかとおもえば、身勝手な魚も多かった。コイのデカすけなぞはとにかく食いしん坊で、人影が見えると水槽の端に寄ってきては全身をくねらせてクレクレダンスをして餌をねだるのである。いったん餌をやるものなら、他の魚の分まで口いっぱいにはおぼり、しまいには吐き出すほどであったが、それでもなおしつこく食べていた。そのデカすけも池に返したときには、一回ジャンプしてさよならを言って戻っていった、と思っている。今いるワルちゃんは、餌をやるとものすごく興奮してしまい、自分が餌を食べるところではなく、とにかく他の魚を追っかけまわすといった具合である。

こんなこともあった。最初ムギツクと間違えてオオムギ、コムギと名づけたモツゴのコンビは、普段は縄張りを主張しあって1日中飽きもせずにくるくると追いかけてこをしいたものであるが、ある日オオムギの調子が悪くなり、砂の上にべったり座り込んでしま

ったときには、コムギはまるで「大丈夫？」とでも言っているかのようにすぐ横に鎮座して心配そうに見守っていた。それまでの仲の悪さと対比して非常に印象に残った出来事である。その後、2匹とも背曲がり病にかかり自由に動けなくなってしまい、ピンセットで餌を口まで持って行って食べさせてやらなければならない寝たきり状態になってしまった。その状態で仲良く並んで半年ほどを過ごしたが、やがてオオムギが逝くと、後を追うようにしてコムギも昇天してしまった。古い餌をやったのが悪かったようで、かわいそうなことをしてしまった。

どうですか、魚の飼育も結構面白いですよ。

「はじめての公務員」

長野久美子

(元 材料・原子核事務室)

2001年4月、国家公務員として名古屋大学に採用され、初めて配属された部署が原子核事務室でした。大学卒業後、広告代理店でコピーライターとして働いてきた私は、「公務員＝融通の利かないお役所仕事」というありきたりの先入観といままでと違う環境に対する好奇心を持って新しい職場での勤務をスタートさせました。1年間働いてきた中で、私に対し最も多くかけられた言葉は「民間経験者だからきっと優秀なんですよ」でした。相手にとっては誉め言葉なのでしょうが、こう言われるたびに私は居心地の悪い違和感を覚えました。たしかに、情報伝達の仕組みから備品の使用方法まで効率が悪いと思う面があります。

しかし、大学事務の根幹はサービスにあるのではないのでしょうか。原子核事務室には効率一辺倒の規格化された民間のそれではなし得ない本当のサービスがありました。学生の他愛のない質問にも親切に答えるあまり事務室はいつも学生がひっきりになしに訪れ、まるでカウンセリングルームのようでした。また、事務室のあり方を教官と直接話し合うことで、自らの手で改善していくことができる充実味の味わえる職場でもありました。事務官と教官の学生のニーズに対し真摯に応える姿勢は、私の配属当初の先入観を見事にぶちこわしてくれました。

一年間で本当にたくさんの新しい刺激を受けました。態度もでかく、おまけに言うこともでかい私と(まあ、地なので仕方ありませんが)正面から向き合って接してくれた事務室の方々と教官、そして学生たちに感謝しています。短い期間で異動になったことはとても残念ですが、民間と公務員、そのどちらも経験したものとして、それぞれの良い面をうまく融合し、なおかつ私らしさをプラスして、民間とか公務員とかではなくいち社会人として社会のために働いていこうと思います。

これから、大学も独立行政法人になり、競争の波にさらされるようになりますが、原子核を学ぶ学生、教える教官、そして事務官にとっていつまでも気持ちのいい場所であることを祈っています。

原子力に対する公衆の合意形成について

山田 克己（平成 9 年度修了）

中部電力（株）浜岡原子力発電所勤務

発電所に勤務している中部電力の従業員には、定期的に浜岡町内の各家庭を訪問し住民と直接対話する機会があります。最近では、5号機の建設状況やプルサーマル・耐震性・1号機事故の対応について、パンフレットを用いて説明しています。地元住民には理解を示す人から怒りをあらわにする人までいろいろいます。原子力の理解を得ることが如何に難しいか実感させられます。

ここでは、遅々として進展のない原子力に対する公衆の合意形成について、これまでの経験にもとづく私見をひとつ述べさせていただきます。

公衆はものごとを感覚的にとらえる傾向があり、その人の意見は感情に左右されています。メディアは一般受けするために感情に訴えた表現、ときには歪んだ表現で報道します。一方、推進派は科学的に問題ないことを立証することに力を注いでいます。それは専門家の使命でもあるのですが、正確に伝えようとするほど複雑で難解な内容となり、公衆から理解されなくなる結果を招いています。こうして多くの人が原子力に対して不安を拭ききれないでいる状況ができあがっているのです。

一般的に人が技術を理解し問題ないと感じるようになるには労力と時間を要します。専門家が学んできたのと同じ過程で公衆にも専門知識を身につけてもらおうとするのは得策ではありません。一時、「プルトニウムは人体に有毒か？」という問いに「プルトニウムを飲んでも害はない」と答えた人が非難されることがありました。この回答は確かに不適切ではありますが、表現自体は非常にわかりやすく一般受けするもので、面白い試みであったのではないかと思います。賛成派はこのような直感的に分かりやすい表現を取り入れることで無党派層を味方に付け、世論形成の主導権をつかみたいところでもあります。

以上、最近感じていることを述べさせていただきました。ありがとうございました。

核院会便り

核院会では毎年様々な催し物を行っています。昨年も名大祭・各種スポーツ大会(ソフトボール・マラソン)などの活動が行われました。

名大祭についてですが、同じ 7 号館でお化け屋敷の展示があったためか、量子エネルギー工学展にもそこそこ多くの人に立ち寄って頂くことができました。

昨年度のスポーツ大会の結果は以下のような結果になりました。ソフトボールの試合は、講座ごとによってその試合数がまちまちだったような印象を受けました。そこで今年度のソフトボールはトーナメント形式にしようと思っておりますので、各講座の積極的な参加を期待しています。マラソン大会も例年同様に 1 月に行われ、特に飯田研の走者の活躍には目を見張るものがありました。

ソフトボール

- 1 位 エネルギー第二講座
- 2 位 原子核第四講座
- 3 位 原子核第五講座

マラソン大会

- 1 位 原子核第四講座(B)
- 2 位 原子核第四講座(A)
- 3 位 エネルギー第四講座

お知らせ

1. 総会の開催(重要)

来る平成 14 年 10 月 26 日(土) 18:00 より愛知厚生年金会館にて、「名原会総会」を開催いたします。主な議事予定を以下に示します。

同封の返信用ハガキに、ご出欠をご記入の上、ご返送ください。ご欠席される方は、ご承認いただけるのであれば、委任状にご署名の上、ご返送ください。

(1) 役員の改選について

会長・副会長・支部長(東京・中部・関西)の任期が満了となります。また、新たに学外からの幹事を選出いたします。新役員(案)を最終ページに記載しました。

(2) 会費納入方法の変更について

従来、会費の3年ごとに名原会会費3年分を納入していただきましたが、今年度より、毎年1年分の会費納入のお願いをさせていただきます。存じます。

(3) 規約改正について

近年の大学内の組織改革により、従来の規約を一部改正いたしたく存じます。詳細については、規約改正案を近日中にホームページに掲載いたしますので、ご覧ください。

2. 金川先生叙勲

金川昭名誉教授は、去る平成13年11月、勲二等瑞宝章を叙勲されました。記念パーティが12/15(土)に開催されました。

3. 森田先生最終講義のご案内

森田健二先生が今年度いっぱいでご退官されます。最終講義の日程など詳細が決まり次第、ホームページに掲載いたします。

4. 「放射線安全工学・エネルギー環境工学」研究室四十周年記念パーティ開催報告

川野教授から始まり池辺教授、飯田教授と受け継がれてきた現原子核工学専攻第4講座の歩みも40年を数えました。これを記念して“「放射線安全工学・エネルギー環境工学」研究室四十周年記念パーティ”を平成13年12月22日(土)、名古屋市千種のメルパルク名古屋にて開催いたしました。やや急なお知らせにも関わらず66名の卒業生、旧職員そして学生の方々にご出席いただきました。この場を借りてお礼申し上げます。賑やかでまた和やかな一時を楽しんでいただけたと存じます。

宴席の様子を撮影した写真をwwwでご覧いただけます。

<http://www.nucl.nagoya-u.ac.jp/n4/mate/>

ご覧いただくために必要なパスワードは別途お知らせ致しましたが、ご確認の問い合わせは、電子メールj-moriizumi@nucl.nagoya-u.ac.jpまで、または電話(052)789-5134までお願いいたします。

5. 工学部同窓会から(60周年・全学同窓会発会)

来る平成14年10月27日(日)に、工学部60周年記念祝賀会ならびに全学同窓会発会記念式典が本学にて開催されます。

6 . 各種証明書

卒業・修了証明書等、各種証明書をご入用の際は、直接工学部教務課へご請求下さい。その際には、下記のことを同封してお申し込み下さい。

- ・長型 3 号 (ほぼ 120 × 235mm) が入る返信用封筒
- ・厳封か否かの表示
- ・学科、卒業年
- ・氏名、生年月日
- ・ローマ字綴り (英文の場合)

編集後記

某政治家が口癖のように多用している「構造改革」がこれからどうなっていくのかは存じませんが、大学の構造改革である「独立行政法人化」の施行される日が着々と近づいています。法人化することで、原子核教室どころか、工学研究科、果ては名古屋大学が、発展するのか衰弱していくのか、内部の者でも先が見えにくい状況です。卒業生各位が「名大・工学部・原子核の卒業である」ことに誇りを持って言い続けられるようにするため、職員一同、努力してまいりますので、皆様からの暖かい叱咤激励のほど、よろしくお願い申し上げます。

(文責 小林 登)

新役員（案）

会 長	水谷 良亮	（昭和 49 年卒、中部電力株式会社）
副会長	中川 和道	（昭和 47 年卒、神戸大学）
	曾田 一雄	（昭和 52 年卒、名古屋大学）
幹 事	山根 義宏	（昭和 48 年修卒、名古屋大学）
	柴田 理尋	（昭和 63 年修卒、名古屋大学）
	瓜谷 章	（昭和 59 年卒、産業技術総合研究所）
	有田 裕二	（平成元年卒、名古屋大学）
	柚原 淳司	（平成 3 年卒、名古屋大学）
	森泉 純	（平成 3 年卒、名古屋大学）
	小林 登	（平成 4 年卒、名古屋大学）
	渡辺 将人	（平成 7 年卒、中部電力）
	渡辺 賢一	（平成 10 年修卒、名古屋大学）
支部長		
東京	飯島 光一郎	（昭和 49 年卒、CALS 技術研究組合）
中部	八田 晋	（平成 2 年卒、中部電力）
関西	占部 逸正	（昭和 47 年卒、福山大学）

名原会・名原会ニュース・名簿に関する問い合わせ先

〒464-8603 名古屋市千種区不老町 名古屋大学工学部
物理工学科（系）量子エネルギー工学コース 名原会
TEL 052-789-3602（小林 登）
e-mail n-kobayashi@nucl.nagoya-u.ac.jp
TEL 052-789-5310（渡辺 賢一）
e-mail k-watanabe@nucl.nagoya-u.ac.jp

量子エネルギー工学コース事務室

TEL . 052-789-3399

FAX . 052-789-3225

教室ホームページ <http://www.nucl.nagoya-u.ac.jp/>